

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが

住んでよかつた
と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



黒豆の声

「くろちゃん、つぶやいてるだけやったらアカン！」とアドバイスをもらって「黒豆の声」になった。

この欄は「ごまめのはぎしり」で始まり、はぎしりはアカンやろ、と「黒豆のつぶやき」に、と変遷をして、ここに落ち着いていた。

川西市の保育所で23年間働いた。保育士が天職(一)と思っていたが、突然、市会議員へのお誘い・・・人生のターニングポイント。

「言いたいこと言って、やりたいことやしてもらおうなら」と突っ走って10年。毎月の「たんぽぽだより」は116号。

ずっと自分の目標だった「保育目標」。

今、私の目標は、「憲法」に記されているように生きること。

「元気で笑顔で自分らしく！」

たくさんの方に支えられて今がある・・・その事に感謝しながら前へ。

さわやかな五月の風が背中を押してくれる。

あふれかえる緑が手を差し伸べてくれる。

住民から不安の声

「契約切れ、出ていくように通知」

一方的退去要請はひどすぎる

住民の声、実態をふまえて対応すべき

3月末を一方的に通知してきただけです。「住み続けられるのか?」「契約切れの場合の家賃はどうなる?」「経営が成り立つのか?」など入居者はもちろん、オーナーからも不安や不満の声がでています。

住民が安心して住み続けることができるよう、契約打ち切り撤回を求めめるなどの取り組みを進めていきます。(また、ご報告します。)

地域の方から「今、住んでいるマンションの契約が切れるから出て行くようにとの通知が来たが、出ていかなければならないのか?」と相談がありました。現在、兵庫県住宅供給公社が民間マンションを借り上げ、家賃補助をしています。20年の契約期間終了に伴う通知がきたというのです。

私(黒田)は、住民アンケートを行い、日本共産党県議団を通じて、県に対して「住民に説明すること・住民の意見を聞くこと」を求めています。が、今のところ応じる気配はありません。

兵庫県借上げ住宅 行革で契約更新せず

より一層、全力でがんばっていきます!



申し訳ありません。

森本猛史氏離党の報告です。

市会議員・森本猛史氏が日本共産党を離党することになりました。2010年秋、みなさまの温かいご支援で4人の日本共産党川西市会議員団を誕生させていただきながら、期待と信頼を裏切る結果になりました。深くお詫び申し上げます。

森本氏から離党の申し出があつて以降、日本共産党阪神北地区委員会と議員団は、森本氏が住民の利益を守る党議員としての役割と責任を果たすよう粘り強く話しあってきました。

しかし、森本氏は住民の利益を守って活動し、国民が主人公の社会をつくる、という日本共産党の活動と展望に確信が持てずに離党の意思が固く、離党を認めざるをえませんでした。

いうまでもなく森本氏は、日本共産党公認で立候補し、党への信頼、支持を得て当選しました。その信頼を裏切り離党した以上、議員を辞職すべきであり、本人に辞職勧告をしています。

森本氏の離党によって日本共産党議員団は5月8日、会派変更手続き(4人→3人)を行い、9日開催の議会運営委員会で、「議席の変更」「委員会委員の変更」「控室の変更」など議会としての手続きを終了しました。

3人の新しい議員団は、決意あらたに地域の声をまっすぐ議会に届け、要求実現に向けた活動に全力で取り組んでまいります。みなさまのご指導よろしく申し上げます。

毎年恒例 5月3日 憲法記念日

ピースウォーク

「平和」の旗を掲げて・・・

今年で6回目

九条の会・かわにし主催の「ピースウォーク」5月3日・・・それぞれの想いを抱いて妙見口から たくたく歩く

様々な歴史と文化に触れながら

今を繋ぐ

私達の先人がしてきたように

私達もつないでいく

命にこだわり

人間らしく・・・を

「あつ!平和って書いてある」こどもの声

命のバトン 心のバトン 想いのバトン

繋いでいこう



花折街

ご意見・ご要望をおきかせください

脱原発 今からが大事

孫、子守る 余生かけて

世論が 原発止めめた

作家
室井 佑月さん

全原発の一時停止で一
気に脱原発が実現できる
わけではなく、これからの
運動がとてども大事だと思
います。

長年、原発に固執して
きた人たちがメディアを
武器に巻き返してくるで
しょう。「うちには電気が
必要」という小さな工
場の社長さんもいます。

そんな人たちにも納得
できるように、どう計画
的に廃炉していくか、
原発に代わる新しいエネ



ルギーをどうつくるか、
丁寧に語る必要があると
思います。それはとりわ
け政治の責任です。

目標は原発ゼロで生き
ていける社会。最後の勝
利をつかむために、足元
をかため、分断されない
よう脱原発を広げたい。

作家・僧侶
瀬戸内寂聴さん

私は余生は原発反対に
かけています。

子どもや孫、ひ孫にこ
んなひどい日本を残して
は死ねないと思いま
した。

90歳のばあさんが座り
込みをやって記事になれ
ば、若者が励まされるで
しょう。私は日本の未来
には希望を抱いていま
す。何かお役に立てるな
らばお役に立ちたい。

広島、長崎の被爆体験
を持つ日本が、唯々諾々



と原発を使っていること
は非常に恥ずかしいこと
です。日本人はもっと言
いたいことを言うべきで
す。たたかわなければな
りません。正しいと思っ
たことに向かって口を開
かないと。(2日、経済
産業省前のハンスト・座
り込みで)



歌手 加藤登紀子さん

広島に原発が落とされ
たときも、日本はすぐに
戦争をやめるといふ決断
をしませんでした。今回
も、もう一度事故が起こ
らないと変わらないので
しょうか。これだけの大

事故を経験してもなお、
原発からの離脱を決定で
きない日本って何という
国だろうと思えますね。
去年から、何度も東日
本大震災の被災地に行っ
てきました。避難所にも
随分、行きました。生ま
れたばかりの小さい子た
ちの姿を見て、あれが私
だったんだらうなってい
う、たまらない懐かしさ
を感じました。

私は1歳8カ月の時、
中国・ハルビンで終戦を
迎えました。家がなくな
って2歳8カ月の頃に引
き揚げ列車で帰るまで、
収容所に入るわけです
ね。2歳ですから記憶に
はないんだけど、避難所
に行くとき、これが私の原
点だと胸の中を熱いも
のが駆け巡るんです。

歌わなくちゃと思いま
した。親たちがぎりぎり
の中で一生懸命、生かし
てくれた。そのありがた
さに今こそこたえたい。
「命結ぶぬちゆい」とい
う歌を昨年5月、計画的
避難区域となった福島県
どこに行っても土や木

かとう・ときこ＝1943年、ハル
ビン生まれ。65年、東大在学中に歌
手デビュー。前UNEP(国連環
境計画)親善大使。『命を結ぶ』
加藤登紀子対談集(中央法規)出
版。7月7日、東京・渋谷Bu
nkamuraオーチャードホ
ールで永六輔、ゴスペルを
ゲストに、加藤登紀子コンサ
ート2012を開催。☎03(3352)3875

ジャーナリスト NPO代表 野中ともよさん



電力会社は全身に血液(電
気)を送る心臓と動脈。
その絶大な力の前で、マ
スコミは大本営発表にな
ってしまいました。

電力会社、大株主の企
業、投資銀行は巨大な利
益をもたらず原発を手放
したくない。地方自治体
も、地域経済も、原発依
存や交付金漬けで、はじ
めて成り立つ仕組みに組
み込まれている。

地球は未来の子ともた
ちから借りているもので
す。私たちは命をパト
ンタッチしなければなりま
せん。地球に生きるすべ
れの命の最強の敵が放射
能。

飯館村でコンサートをし
た時に完成させました。
美しい村を出て行く人た
ちに、何を歌えばいいの
か。必死で考えました。
「ひとりでもひとりじ
ゃない」という歌詞には、
過去・現在・未来の命が
つながっていくという意
味もあるんです。生まれ
てから死ぬまでの大切な
時間を前の世代から受け
られ、次の世代に手渡
していく。3・11は、私た
ちが大自然の中で必死で
生き延びようとする命の
群れであることを教えて
くれました。

や水がある日本は、世界
でも恵まれた国です。そ
の財産を生かし、持続可
能な社会に戻す。流され
て生きるのはなく自分
から生きる。

聞き手・板倉三枝記者

すべての原発が止まっ
た今、いよいよ私たち一
人ひとりがこの国の未来
について、真剣に考えな
ければいけない時期が来
たと思います。

このやり方でもう一回
いくのか、それとも新し
いルールのもとで、日本
をつくり変えていくのか

必要はありません。
それが原子力発電である
地球は未来の子ともた
ちから借りているもので
す。私たちは命をパト
ンタッチしなければなりま
せん。地球に生きるすべ
れの命の最強の敵が放射
能。

選挙になれば、候補者
一人ひとりに原発、再稼
働に〇か×を問うていく
ことも大切です。

3・11は「目を覚ませ」
というウエークアップコ
ールでもあったと思いま
す。聞き手・那須絹江記者

「日本の近代化は「電化」
という言葉に置き換えて
もいいと思います。その
ために10の電力会社が地
域独占をするシステムを
つくりました。

「命結ぶぬちゆい」とい
う歌を昨年5月、計画的
避難区域となった福島県
どこに行っても土や木

ともよ＝NHK、テ
レビ東京などの番組キャス
ターを務めた後、アサヒビ
ール、三洋電機などの企業
役員を歴任。現在、NPO
法人「ガイア・イニシア
ティブ」代表。電気のない生
活を送る世界の人々にソー
ラーランタンを普及するプ
ロジェクトなどに取り組む

「命結ぶぬちゆい」とい
う歌を昨年5月、計画的
避難区域となった福島県
どこに行っても土や木

ともよ＝NHK、テ
レビ東京などの番組キャス
ターを務めた後、アサヒビ
ール、三洋電機などの企業
役員を歴任。現在、NPO
法人「ガイア・イニシア
ティブ」代表。電気のない生
活を送る世界の人々にソー
ラーランタンを普及するプ
ロジェクトなどに取り組む

国の頑迷さを突き崩そう

原発ゼロへ 私の思い

シリーズ

新しい価値観探る楽しさ